行政報告

(令和 7 年第 5 回定例会【9 月】提出)
安芸太田町

1 戦没者追悼・平和祈念式典について【総務課】

8月15日、役場本庁大集会室において安芸太田町戦没者追悼・平和祈念式典を開催しました。遺族会や原爆被害者の会、町関係者併せて102人が参列されました。

戦後80年の節目である今年は、被爆の実相や戦争の悲惨さを「未来にどう語り継ぐのか」をテーマに、式典終了後、加計小学校の平和学習の取組と、8月6日に加計中学校が参加した「第1回全国子ども平和サミット」の様子をご覧いただくとともに、町内の若者で被ばく体験伝承者がおられますので、その取組を紹介していただきました。

また、正午には防災行政無線でサイレンを鳴らし、町民の皆様に黙とうを呼びかけました。

2 安芸太田町行財政審議会について【総務課】

6月30日、本年度第1回目の「安芸太田町行財政審議会」を開催し、本審議会に対し、「中期財政運営方針」及び「定員管理計画」の策定と、「公共施設等個別施設の方向性」について諮問をいたしました。そのうえで会議では、公共施設全般の見直しの基本的な考え方と、個別施設となる集会施設・観光施設・産業施設の今後の方向性についてご議論いただきました。

また、8月19日には第2回目の審議会を開催し、中期財政運営方針、定員管理計画の現状と次期計画の趣旨を説明するとともに、公共施設等個別施設については行政施設、保健・福祉施設、医療施設等の今後の方向性についてご議論いただきました。

審議会からは、来年2月末を目途に、それぞれ答申をいただく予定としております。

3 安芸太田町防災フェアについて【危機管理室】

8月2日、「安芸太田町防災フェア」を役場前駐車場で開催しました。自衛隊や消防団車両の展示・乗車体験や、VRゴーグルによる土石流被害の疑似体験のほか、自衛隊が、災害派遣で使用される炊事システムで調理されたカレーライスの試食会も行いました。

イベントには概ね150人を超える方々にご来場いただき、防災意識の高揚につながったものと思います。

4 消火用水支援協定締結について【危機管理室】

8月8日、「消火用水支援協定」をあさやま工業様と締結しました。これは、4月に発生した戸河内松原の林野火災を教訓に、消火用水が著しく乏しい火災現場における水利の支援要請を可能とする内容で、有事の際に備えるものです。引き続き、地域住民、事業者と連携を図り防災力を高めてまいります。

5 第二次長期総合計画（まち・ひと・しごと創生総合戦略）施策評価について

【企画DX課】

令和6年度に取り組んだ事業について、第二次長期総合計画（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の後期基本計画策定時に設定した目標値と実績値を点検し、施策の成果と課題について内部評価を行いました。

この内部評価については、7月24日の「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」において、各委員からご意見をいただきました。今後は、今年度新たに策定した第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づきPDCAサイクルの徹底を図りながら施策の充実に努めてまいります。

6 安芸太田町地域公共交通会議について【企画 DX 課】

8月26日、安芸太田町地域公共交通会議を開催しました。会議では、令和6年5月から運行を開始した新公共交通システム「もりカー」について、年間利用者数が約2万4千人に達し、令和5年度の「定額タクシー」と「あなたく」の年間利用者数に対して約10%増加している旨を報告するとともに、10月1日より、石見交通の新広益線が営業を再開されること、町内事業者が、本町内で介護タクシー事業を行う準備を進めておられることなどを報告いたしました。

また、町内バスの寺領線について、運転手不足と利用者大幅減の観点から、廃止について検討している点について、ご審議していただきました。

7 地域通貨「morica」の運用について【企画 DX 課・産業観光課】

令和6年度の地域通貨「morica」の運用については、利用金額の10%相当額を還元するプレミアムポイントキャンペーンの実施や、国の給付事業や町の交付事業を地域通貨「morica」で給付するなどの取組により、年間チャージ額は約2億6,870万円と対前年比14%増、年間利用金額は約3億6,360万円と対前年比12%増と、どちらも増加しています。

今後もキャンペーンの実施に加え、健康ポイント事業など町の施策と絡めることで地域通貨「morica」の更なる利用促進を図ります。

8 光ファイバーケーブル及び関連設備の民間移行について【企画 DX 課】

設備の維持管理に係る財政的・人的負担の軽減及び、光通信サービスの向上を図るため、本町が整備した光ファイバーケーブル及び関連設備をNTT西日本中国支店に譲渡することについて、7月10日に覚書を締結しました。

今後は、NTT西日本中国支店と連携して、電柱の地権者への周知など円滑な移行手続きに努めてまいります。

9 もりみんハイツ入居状況について【地域協働課・建設課】

「もりみんハイツ」は、新たに3戸の入居が決定し、全20戸のうち17戸が入居となり、町外からの移住者20名を含む、35名の町民の維持確保に貢献しています。2LDKの家族向けは土居が残り1戸、1LDKの単身向けは天神原が残り2戸の状況となっています。

10 空き店舗を活用した社会実験事業について【地域協働課】

「旧レッツ戸河内店」の空き店舗を活用した社会実験事業について、店名を「とごうちストア」とし、複数の小規模事業者から商品を取りまとめ販売する新しい形の店舗として準備中です。

オープンは9月15日の予定で、これに先がけて開催した8月2日のオープン前イベントには、周辺地域より約200名の方々にお越しいただき、野菜・果物・生花を販売するとともに、店舗のあり方について意見交換やアンケートを実施しました。

また8月21日と9月1日には、商工会員を中心とした出品者説明会を行ったところです。なお、ストアの販売スタッフとしては、9月1日より地域おこし協力隊1名が新たに着任しています。

11 集落支援モデル事業について【地域協働課・衛生対策室・安芸太田病院】

集落の高齢化・小規模化に対応するため、「買物」「医療」「ごみ出し」といった生活

に最低限必要なサービスを提供するための実証事業がスタートしています。

まず「ごみ出し」では、7月から小規模集落の高齢者等を対象に、自宅玄関前でのごみ回収を開始し、現在5世帯が利用中です。次に「医療」は、9月第2週目から、戸河内松原で毎週火曜日、筒賀東区で毎週金曜日に、移動診療車によるオンライン巡回診療と、オンライン健康相談を開始します。「買物」については、既存の移動販売業者に巡回先の追加をお願いしたほか、近日オープン予定の「とごうちストア」の商品を、巡回診療に合わせて集落で買い物ができるように準備を進めています。

今後利用者や関係者の感想や意見を参考にしながら、各取組の改善を図るとともに、事業の効果等を検証してまいります。

12 戸籍に記載する予定の氏名のフリガナについて【税務住民課】

8月20日、改正戸籍法により戸籍に新たにフリガナを記載することとなったため、そのフリガナを確認いただくハガキを8,745通送付しました。

通知されたフリガナがご本人の認識と一致している場合は、そのままフリガナとして記載されますが、本人の認識と異なるフリガナが記載されている場合には、届出による修正が必要となります。

戸籍にフリガナが記載されることで、マイナンバーカードにもフリガナを表示できるようになるほか、データベース上での検索処理が容易となり、誤記や照合の誤りを抑えられるものと期待しています。

13 イベントの開催状況について【産業観光課】

6月は吉水園春の一般公開や第46回中国地方選抜神楽競演大会、7月は龍姫湖でのウォーターアクティビティを中心としたLakeTime'25-Summer Party、第59回納涼加計まつり、8月は第32回安芸太田町ふれあい戸河内まつりで、こちらは過去最多となる4,800人の来場となるなど、町内外問わず多くの方へ安芸太田町の魅力を伝える機会となりました。

また、修道地区の夏祭りでは初めて花火を催すなど、振興会単位でも創意工夫された夏祭りや盆踊りが開催され、地域の活性化につながる賑わいとなりました。

14 安芸太田町神楽振興について【産業観光課】

7月2日開催の2025大阪・関西万博の日本国際芸術祭 in EXP02025において、安芸太田町合同神楽団が神楽を上演しました。当日は、4演目6公演を披露し、多くの方にご来場いただきました。また、動画配信を行い視聴件数が現在6,000回を超えるなど、大きな反響を呼ぶ公演となりました。

また、12月6日には「ひろしま神楽 関西公演 in 堺」にも、安芸高田市、北広島町と合同で、本町の神楽団が出演することが決まっております。引き続き、本町の歴史・文化に根付く伝統芸能「神楽」の魅力発信と認知度向上を進めてまいります。

15 安芸太田町上下水道料金審議会について【建設課】

8月3日、第1回上下水道料金審議会を開催し、本町の上水道料金の見直しについて諮問を行いました。会議では、「安芸太田町の水道事業」や「経営戦略の検討状況」、「今後の施設整備」等、水道事業の課題や基本方針について説明を行い、料金改定の必要性等について審議を行いました。審議会は、今回を含め4回開催予定で、来年1月末を目途に諮問に対する答申をまとめる事としています。

16 令和6年度住民税非課税世帯等物価高騰対応重点支援給付金について

【健康福祉課】

令和6年度に住民税非課税となった世帯に対して、1世帯当たり3万円の給付金を支給する事業について、支給が完了しています。この事業では給付対象となる世帯に18歳以下の児童がいる世帯には、子ども一人あたり2万円の子ども加算を実施しています。現在の給付及び利用実績は、以下のとおりです。

区 分	内 容
給付額	住民税非課税世帯：960世帯（1世帯3万円） 子ども加算：31世帯・51人（1人あたり2万円） ※町地域通貨「morica」へ期間限定ポイントを付与
給付額 （実績）	29,820,000円
利用実績	28,839,303円（利用率：96.71%） ※令和7年8月末現在
利用期間	令和7年2月13日～令和7年8月31日

17 「黒い雨」体験者への被爆者健康手帳交付について【健康福祉課】

令和4年4月1日から運用されている「黒い雨」にかかる手帳交付制度の申請状況等について、本町における8月末日までの累計件数は次のとおりです。

申請種類	申請件数	交付件数	却下件数
被爆者健康手帳の交付	661件	625件	27件
健康管理手当の認定	769件	584件	170件

また、手帳の申請661件の各年数の実績は次のとおりです。

申請実績	黒い雨	黒い雨（胎内）	合計件数
令和3年度（2021年度）	201件	2件	203件
令和4年度（2022年度）	229件	5件	234件
令和5年度（2023年度）	113件	13件	126件
令和6年度（2024年度）	71件	4件	75件

※ 令和3年度中の申請は、全て令和4年4月1日付けの決定となります。

※ 令和7年度の申請は8月末現在で23件（黒い雨21件、胎内2件）で、合計661件となります。

今後も厚生労働省や広島県とも連携し、町民広報等を活用しながら「黒い雨」にかかる制度周知や適正な事務に努めていきます。

18 安芸太田町病院事業あり方検討委員会について 【健康福祉課】

7月28日に第2回目の、また8月27日に第3回目の安芸太田町病院事業あり方検討委員会を開催しました。

第2回目の会議では、15年後（2040年）を見据えた病院患者数の将来見通しや、それを踏まえた病床数の適正規模、診療体制（土曜診療や救急受入れの有無など）の方向性について議論を進めるとともに、老朽化の進む西棟（入院棟）の対応等について協議しました。

また、第3回目の会議では病院事業の決算を分析し、今後の医療収益改善に向けた取

組について協議するとともに、戸河内診療所のあり方について、委員会としての一定の方向性を見出したところです。

これまで協議された内容等については、検討委員会に提出した資料も併せ町公式サイトで随時報告してきたところですが、次回（第4回目）の委員会を9月に開催した後、改めて、これまでの検討内容を住民の皆さまにお知らせするべく、11月頃に住民説明会（シンポジウム）を開催する予定です。

19 森のようちえん事業について【教育課】

「森のようちえん事業」への取組については、今年度初めて広島県の自然保育推進アドバイザー派遣事業による現地保育活動を実施し、本年度目標の一つである「ひろしま自然保育認証」を取得するための申請を各園・所で行ったところです。

また、職員研修として、教育大綱策定にも携わっていただいた内田幸一先生が運営する長野県の認定こども園での現地研修、子どもたちが安心・安全に屋外活動ができるように救命講習を行うとともに、赤十字広島県支部の講師を活用した幼児安全講習も予定しています。

なお、さらなる自然保育・教育を進めるにあたり、安芸太田町版森のようちえん事業の愛称を募集したところ、愛称メインテーマは「もりみんな山のこども園」、サブテーマは「こもれびの森ひみつきち」と決めさせていただきました。今後、各園・所での活動を含め、この愛称のもと本町の自然保育・教育に係る情報発信を行います。

20 保小中高連携について【教育課】

7月23日、町内のこども園、保育所、小学校、中学校、高校の園長、所長、学校長が一堂に会する安芸太田町保小中高連絡協議会を加計高校で行いました。

会議では、令和7年3月に策定された教育振興基本計画について説明をしました。また、中学校区ごとに分かれ、校種を越えたコラボレーションの具体について協議をしました。毎年実施しているこの会が、本町の教育大綱にある「安芸太田町らしい学び」の実現に向けた取組の一つとなっています。

21 学校教育活動について【教育課】

5月下旬から6月初旬にかけて、第1回目の学校運営協議会を町内全ての学校において開催しました。委員の皆様は授業の様子を見学していただくとともに、それぞれの学校運営方針や取組の重点等を説明し、承認を受けました。

7月10日から12日までの3日間、町内3小学校の5年生が合同で、国立江田島青少年交流の家において、ビーチコーミング（海岸などに打ち上げられた漂着物を観察したりする行為）、カッター研修などの体験活動を実施しました。日常とは異なる江田島での体験活動を通して、仲間と支え合いながら自ら考え、行動に移す姿が見られました。

7月30日、今年で13年目を迎える「科学アカデミー」を日本技術士会中国本部から講師をお招きして実施しました。25人の町内小学生が参加し、ゴムやテンセグリティ（張力と圧縮力のバランスによって構造を支える原理）について考えながら科学工作を行いました。今後は、10月に小学生高学年、中学生を対象として開催する予定です。

22 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）登山競技の開催について【教育課】

8月5日から9日まで、令和7年度全国高等学校総合体育大会登山大会が恐羅漢山、

十方山、深入山等で開催され、200人を超える県内外の運営役員、陸上自衛隊等の協力を得て、男子46校、女子45校の選手364人が体力、知力及びチームワークを競い合いました。

大会2日目の8月6日には、恐羅漢山で競技中ではありましたが、黙とうの時間が設けられた一方、翌朝の荒天に備えて、夕方には選手全員が戸河内ふれあいセンターに避難するなどの予定外の事態への対応も発生しました。

3日目には協議が終了し、4日目は、エキシビジョンとして深入山への登山や三段峡黒淵での渡舟を体験されました。

広島県勢は、男子の部では広島学院高校が優勝、修道高校が15位、女子の部ではノートルダム清心高校が4位、県立広島高校が12位の成績を残しました。

閉会式では、来年度開催地である兵庫県代表の香美町前田教育長等に大会旗等の引継を行いました。

23 第63回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会の開催について【教育課】

第63回大会は、7月28日から31日までの4日間、つつがライフル射撃場で開催され、全国から125校、選手・マネージャー合わせて約550人の参加がありました。

加計高校射撃部では、エアライフル女子団体で過去最高となる7位に入賞されました。また、射撃部員は、ボランティアスタッフとして、大会の準備及び運営補助に携わっていただきました。

インターハイ登山競技とあわせ、町内での宿泊やバスの送迎利用等、多くの経済波及効果もあった大会となりました。

24 病院事業の取組について【病院事業】

今年度は電子カルテの更新年で、7月22日にプロポーザルを実施しました。戸河内診療所と安芸太田病院の電子カルテシステムを統合し、両方に受診歴がある人のカルテIDを統一し、どちらからでもカルテ閲覧が可能となります。また、院外から電子カルテへのアクセスを可能とし、専門医によるオンライン診療や在宅医療への展開を考えています。

また、6月1日に医療機関に対する業務監査・指導についての契約を有限責任監査法人デロイトトーマツと締結し、10月1日から始まる訪問審査・指導に合わせて、事前資料の作成並びに業務内容の点検に着手しています。